

基礎分野

外国語（英語）（講義）

担当教員： 木下幹朗

学 年： 第2学年

単位区分： 必修

単 位 数： 1 (16)

開講時期： 前期

授業形態： 講義

テキスト： 歯科技工士のための図解歯科英語教本・オリジナル資料

参考文献：

実務経験等： 民間事業所にて職業訓練インストラクター等の業務に従事する講師により、その豊富な知識・経験等を活かし歯科英語の知識習得への講義を行う。

【 授業の概要と目的 】

歯科の分野においても急速な国際化社会になりつつあり、歯科技工士の教育においても活躍の場を広げてゆく可能性と将来性を鑑み、外国語、特に専門用語を学ぶことは重要である。医歯薬出版株式会社発行の「歯科技工士のための図解歯科英語」を教科書とし歯科の専門用語について詳しく教授する。

【 評価方法 】

講義終了時に単位取得試験を実施する。

学則に基づき60点を合格基準とする。

（講義期間中にレポート課題、小テストを実施した場合は、試験結果との総合評価）

授業回数2/3以上の出席をもって試験受験可とする。

【 履修上の注意事項 】

講義前には教科書を必ず読み、意味の分からない点など確認しておくこと。

歯科技工造形学（講義）

担当教員： 金子裕子 佐藤剛 川畑賢志朗
学 年： 第1学年
単位区分： 必修
単 位 数： 1 (16)
開講時期： 前期
授業形態： 講義
テキスト： 歯科技工造形概論教本・歯科用語辞典・オリジナル資料
参考文献：
実務経験等： 歯科技工士として勤務実績があり、長年の本校授業実績に基づく知識・経験等を有する本校専任教員3名により、歯科技工における創造的な表現と観察力習得への講義を行う。

【 授業の概要と目的 】

歯科技工士教育における歯科技工造形学は、歯科技工士が修復物などを製作する際に、直接あるいは間接的に役立つ美的な感覚を養成することを目的とする。

歯科技工士は、修復物の製作を通して、機能を回復するとともに顔貌を再現することに携わる職業である。したがって、人間の顔、さらには個性と深い関りをもっているといえる。造形美術における人物表現でも、顔と個性の持つ意味は重要である。

こうした理念に基づき、造形美術の概念、形、色、光による対象の見え方、把握、表現などを学んでいく。とくに、色彩に関しては色を理論的に理解していくために副教材を用いて実技を行っていく。また、デッサンなどを通じて、顔と歯との関係において学び、美しい歯と歯列とはどんなものであるかについて考えを深めていくとともに、創造的な表現と観察の力をさらに伸ばすことを目標とする。

【 評価方法 】

1年次の前期試験により評価を行う。

学則に基づき60点を合格基準とする。

授業回数2/3以上の出席をもって定期試験受験可とする。

【 履修上の注意事項 】

意味の分からない専門用語は歯科用語辞典を使用し意味を理解したうえで講義に臨むこと。

情報リテラシー（講義）

担当教員： 木下幹朗

学 年： 第2学年

単位区分： 必修

単 位 数： 1 (16)

開講時期： 前期

授業形態： 講義

テキスト： 歯科技工管理学教本・オリジナル資料

参考文献：

実務経験等： 民間事業所にて職業訓練インストラクター等の業務に従事する講師により、その豊富な知識・経験等を活かしコンピューター・インターネットを利用した情報収集・開示の基本的知識・技能等習得への講義を行う。

【 授業の概要と目的 】

コンピューターの利用方法を理解し、必要なデータや情報を有効活用するために、インターネットを利用した情報収集、開示に関する基本的知識技能及び態度を修得する。

【 評価方法 】

講義終了時に単位取得試験を実施する。

学則に基づき60点を合格基準とする。

（講義期間中にレポート課題、小テストを実施した場合は、試験結果との総合評価）

授業回数2/3以上の出席をもって試験受験可とする。

【 履修上の注意事項 】

講義前には教科書を必ず読み、意味の分からない点など確認しておくこと。

情報リテラシー（実技）

担当教員： 木下幹朗

学 年： 第2学年

単位区分： 必修

単 位 数： 1 (32)

開講時期： 前期

授業形態： 実技

テキスト： 歯科技工管理学教本・オリジナル資料

参考文献：

実務経験等： 民間事業所にて職業訓練インストラクター等の業務に従事する講師により、その豊富な知識・経験等を活かしコンピューター・インターネットを利用した情報収集・開示の基本的知識・技能等習得への講義を行う。

【 授業の概要と目的 】

コンピューターの利用方法を理解し、必要なデータや情報を有効活用するために、インターネットを利用した情報収集、開示に関する基本的知識技能及び態度を修得する。

【 評価方法 】

講義終了時に単位取得試験を実施する。

学則に基づき60点を合格基準とする。

（講義期間中にレポート課題、小テストを実施した場合は、試験結果との総合評価）

授業回数2/3以上の出席をもって試験受験可とする。

【 履修上の注意事項 】

講義前には教科書を必ず読み、意味の分からない点など確認しておくこと。

コミュニケーション学（講義）

担当教員： 松田剛次

学 年： 第1学年

単位区分： 必修

単 位 数： 1 (16)

開講時期： 前期

授業形態： 講義

テキスト： 歯科技工管理学教本・オリジナル資料

参考文献：

実務経験等： キャリアコンサルタントの資格を持ち民間企業等での豊富な実績を有する講師により、コミュニケーション能力の基本的知識、技能等習得への講義を行う。

【 授業の概要と目的 】

歯科医師や歯科衛生士と専門的コミュニケーションを図るとともに、患者と接する場合には歯科医療技術者として節度を持ったコミュニケーション能力を発揮する。

他者の意見を整理し、自分の意見を相手に伝達するために、基本的知識、技能、および態度を習得する。

【 評価方法 】

講義終了時に単位取得試験を実施する。

学則に基づき60点を合格基準とする。

（講義期間中にレポート課題、小テストを実施した場合は、試験結果との総合評価）

授業回数2/3以上の出席をもって試験受験可とする。

【 履修上の注意事項 】

講義前には教科書を必ず読み、意味の分からない点など確認しておくこと。

歯科技工学概論（講義）

担当教員： 芹川小鈴 川鍋絹恵

学 年： 第1学年

単位区分： 必修

単 位 数： 2 (32)

開講時期： 前期

授業形態： 講義

テキスト： 歯科技工管理学教本・歯科用語辞典

参考文献：

実務経験等： 歯科技工士として勤務実績があり、長年の本校授業実績に基づく知識・経験等を有する本校専任教員1名、及び2001年より歯科医師として大学、民間医院にて診療業務に従事し豊富な実績を有する講師により、歯科技工士の職務全般の知識習得への講義を行う。

【 授業の概要と目的 】

歯科医療の概要、歯科医療における歯科技工の位置づけ、医療技術者としての心構え、そして国家資格を有する医療人として順守しなければならない遵法精神を養い、日々進化する歯科医療の現状を鑑み、新たな知見を加え、知識を習得する。

【 評価方法 】

年2回の定期試験により評価を行い、その平均による。

学則に基づき60点を合格基準とする。

授業回数2/3以上の出席をもって定期試験受験可とする。

【 履修上の注意事項 】

意味の分からない専門用語は歯科用語辞典を使用し意味を理解したうえで講義に臨むこと。

【 授業の展開計画と到達目標 】

科目	歯科技工学概論（講義）
1	医療の目的を説明できる。
2	インフォームドコンセントについて説明できる。
3	EBM（Evidence-basedMedicine）の必要性を説明できる。
4	QOL（Quality of Life）とADL（Activities of Daily Living）との関係性を説明できる。
5	他職種との連携とチーム医療について説明できる。
6	チーム医療でのコミュニケーション力の必要性を認識できる。
7	歯科医療の目的を説明できる。
8	歯科医療の特異性を説明できる。
9	歯科技工士の業務を説明できる。
10	歯科技工士に必要な倫理を述べる。
11	日本と世界の歯科技工士の現状を説明できる。
12	顔の形態と機能を説明できる。
13	歯と歯列の形態を概説できる。
14	歯と歯周組織の構造を説明できる。
15	口腔の機能を概説できる。
16	硬組織疾患の種類と特徴を説明できる。
17	齲蝕発症の要因を列挙できる。
18	歯周組織疾患の種類と特徴を説明できる。
19	歯の喪失に伴う歯周組織の変化を説明できる。
20	歯科疾患の現状を述べる。
21	硬組織疾患の治療に適用する補綴装置の種類と特徴を列挙できる。
22	歯の欠損に適用する補綴装置の種類と特徴を列挙できる。
23	口腔外科疾患の治療後に適用する装置の特徴を説明できる。
24	歯科技工を行うのに適切な作業環境を説明できる。
25	歯科補綴装置等の品質管理と品質保証を説明できる。
26	歯科補綴装置等のトレーサビリティを説明できる。
27	歯科技工作業における感染防止を説明できる。
28	口腔が全身の健康に及ぼす影響を説明できる。
29	我が国の健康政策を説明できる。

関係法規（講義）

担当教員： 下川哲生

学 年： 第2学年

単位区分： 必修

単 位 数： 1 (16)

開講時期： 前期

授業形態： 講義

テキスト： 歯科技工管理学教本・歯科用語辞典

参考文献：

実務経験等： 行政経験が豊富で法規関係に造詣が深い講師により、その知識・経験等を活かし歯科技工士法を含む「歯科三法」の学習とともに他の医療関連法規等もあわせて講義を行う。

【 授業の概要と目的 】

関係法規では、法律や衛生行政について、また歯科5法のうち歯科技工士法・医療法・歯科医師法・歯科衛生士法について学習する。

【 評価方法 】

年2回の定期試験により評価を行い、その平均による。

学則に基づき60点を合格基準とする。

授業回数2/3以上の出席をもって定期試験受験可とする。

【 履修上の注意事項 】

意味の分からない専門用語は歯科用語辞典を使用し意味を理解したうえで講義に臨むこと。

【 授業の展開計画と到達目標 】

科目	関係法規（講義）
1	法律の概要を説明できる。
2	衛生行政の意義を説明できる。
3	衛生行政の組織と活動を述べる。
4	歯科技工士法の目的を述べる。
5	歯科技工の法的定義を述べる。
6	歯科技工士の法的定義を述べる。
7	歯科技工所の法的定義を述べる。
8	歯科技工士免許に関する法律を説明できる。
9	歯科技工士国家試験の意義と目的を説明できる。
10	歯科技工業務の内容を説明できる。
11	歯科技工所に関する法律を説明できる。
12	歯科技工に関する違反行為と罰則を説明できる。
13	医療法の目的を説明できる。
14	病院と診療所の法的定義を述べる。
15	歯科医師法の目的を説明できる。
16	歯科医師の任務を説明できる。
17	歯科衛生士法の目的を述べる。
18	歯科衛生士の法的定義を述べる。

口腔・顎顔面解剖学（講義）

担当教員： 佐藤剛 西村慈子 他外来講師
学 年： 第1学年
単位区分： 必修
単 位 数： 2 (32)
開講時期： 前期
授業形態： 講義
テキスト： 口腔・顎顔面解剖学教本・要点チェック問題集・歯科用語辞典
参考文献：
実務経験等： 歯科技工士として勤務実績があり、長年の本校授業実績に基づく知識・経験等を有する本校専任教員1名、及び歯科医師として1987年より民間医院にて診療業務に従事する講師等により、口腔機構を支える多くの器官に関する知識習得への講義を行う。

【 授業の概要と目的 】

口腔は消化器系の入り口であり、その主たる機能は生命維持に必要な栄養の摂取だが、それに加えて発音や審美、さらには表情を通しての感情表現などにも重要な機能を果たす。口腔・顎顔面解剖学はこれら口腔の形態や機能の維持・回復を目的とする学問であり、機能と密接な関係にある形態や顔面頭蓋骨の構造、口腔周囲の筋や神経支配など深い知識を習得する。

【 評価方法 】

年2回の定期試験により評価を行い、その平均による。
学則に基づき60点を合格基準とする。
授業回数2/3以上の出席をもって定期試験受験可とする。

【 履修上の注意事項 】

意味の分からない専門用語は歯科用語辞典を使用し意味を理解したうえで講義に臨むこと。

【 授業の展開計画と到達目標 】

科目	口腔・顎顔面解剖学（講義）
1	歯の生物学的特性を述べる。
2	歯の外形と内形を説明できる。
3	歯の種類と名称を列挙できる。
4	歯の記号と歯式の表示法を説明できる。
5	歯の方向と部位を表す用語を説明できる。
6	歯の形態を説明できる。
7	歯の植立様式を説明できる。
8	永久歯の形態的特徴を列挙できる。
9	歯の組織の基本的構造を説明できる。
10	歯周組織の基本的構造を説明できる。
11	歯の数、形態および色の異常について説明できる。
12	歯の発生、発育および交換の過程を説明できる。
13	歯と歯周組織の加齢変化を説明できる。
14	顎口腔の加齢現象を説明できる。
15	頭蓋骨の構造を説明できる。
16	顎口腔の神経支配を概説できる。
17	顎顔面の筋の形態的特徴と機能を説明できる。
18	顎関節の構造と機能を説明できる。
19	口腔と口蓋の構造を説明できる。
20	唾液腺の役割と存在部位を説明できる。
21	舌の構造と役割を説明できる。

口腔・顎顔面解剖学（実技）

担当教員： 佐藤剛 川畑賢志朗 前崎宏典

学 年： 第1学年

単位区分： 必修

単 位 数： 4 (128)

開講時期： 前期/後期

授業形態： 実技

テキスト： 歯の解剖 歯のデッサンと歯型彫刻・オリジナル資料

参考文献：

活動実績等： 勤務実績があり、長年の本校授業実績に基づく知識・経験等を有する本校専任教員2名、及び1991年より民間医院に勤務し豊富な実績を有する講師（いずれも歯科技工士）により、歯科技工技術の基本習得への講義を行う。

【 授業の概要と目的 】

個々の歯を立体的に表現することで、咀嚼・嚥下という機能を正常に行うために、歯列の構成要素としてあるべき歯の形態および特徴の認識を深める。

歯型彫刻で用いる彫刻技法は、歯冠修復や補綴装置製作といった臨床歯科医学の基礎である。歯型彫刻を通して歯種の鑑別能力を涵養するとともに、器具・材料の取り扱いや作業姿勢、手指の使い方など、歯科技工技術の基本を習得する。

歯型彫刻では、歯冠の形態の再現のみにとらわれず、歯髄の走行を考慮して歯冠から歯根までを移行的に再現する。その際、対合歯および隣在歯との調和も想起しながら製作する技術を習得する。

【 評価方法 】

年2回の定期試験により評価を行い、その平均による。

学則に基づき60点を合格基準とする。

授業回数2/3以上の出席と、各提出物をすべて提出済み且つ評価が合格ラインを超えた場合に定期試験受験可とする。

【 履修上の注意事項 】

作業がスムーズにできるように、実習に必要な技工用具の準備をしておくこと。

【 授業の展開計画と到達目標 】

科目	口腔・顎顔面解剖学（実技）
1	歯の歯式・名称・形・特徴等について説明できる。
2	使用器具の説明ができる。
3	歯型彫刻の手順を説明できる。
4	切歯の形態的特徴を理解しスケッチできる。
5	石膏棒を用いて形態を彫刻できる。
6	犬歯の形態的特徴を理解しスケッチできる。
7	石膏棒を用いて形態を彫刻できる。
8	小臼歯の形態的特徴を理解しスケッチできる。
9	石膏棒を用いて形態を彫刻できる。
10	大臼歯の形態的特徴を理解しスケッチできる。
11	石膏棒を用いて形態を彫刻できる。
12	天然歯模刻の手順を説明できる。
13	石膏棒を用いて天然歯の形態を模刻できる。
14	ワックスを用いて天然歯の形態を模刻できる。

顎口腔機能学（講義）

担当教員： 三村彰吾

学 年： 第2学年

単位区分： 必修

単 位 数： 1 (16)

開講時期： 前期

授業形態： 講義

テキスト： 顎口腔機能学教本・要点チェック問題集・歯科用語辞典・オリジナル資料

参考文献：

実務経験等： 歯科医師として1997年より大学、民間医院にて診療業務に従事し豊富な実績を有する講師により、その知識・経験等を活かし顎口腔系の機能及び関連した解剖学知識等の習得への講義を行う。

【 授業の概要と目的 】

歯科治療の重要な目的の一つに、歯と歯列の形態を適正なものにすることによって顎口腔系の機能を正しく維持することがあげられる。

歯科技工において、顎口腔系の機能と形態を維持することを目的に種々の修復物や装置を製作するが、修復物の製作においてはそれが機能の回復と維持に適切な形態を備えていること、顎関節症治療のためのスプリントや矯正のための可撤性装置などでは顎口腔系の機能をできるだけ障害しないよう配慮された形態が必要である。本科では、歯科技工士に必要な顎口腔系の機能と関連した解剖学的な知識の習得を行う。また、間接法による補綴修復物の製作に必要な咬合器について、咬合器の分類を学び、咬合器による再現の原理と咬合器の使用範囲と要件を理解する。

【 評価方法 】

年2回の定期試験により評価を行い、その平均による。

学則に基づき60点を合格基準とする。

授業回数2/3以上の出席をもって定期試験受験可とする。

【 履修上の注意事項 】

意味の分からない専門用語は歯科用語辞典を使用し意味を理解したうえで講義に臨むこと。

【 授業の展開計画と到達目標 】

科目	顎口腔機能学（講義）
1	歯列と咬合の関係を説明できる。
2	顎顔面の筋の形態的特徴と機能を説明できる。
3	顎関節の構造と機能を説明できる。
4	顎口腔の神経支配を概説できる。
5	顎口腔系の機能を説明できる。
6	下顎運動の分析に必要な基準点と基準平面を説明できる。
7	咬合に関与する平面を説明できる。
8	下顎位の定義を説明できる。
9	下顎の基本運動の種類と特徴を説明できる。
10	下顎の限界運動を説明できる。
11	下顎の機能運動を説明できる。
12	機能咬頭、非機能咬頭および被蓋関係を説明できる。
13	咬頭嵌合位と偏心位の咬合接触を説明できる。
14	咬合干渉の種類と原因を列挙できる。
15	咬合器の種類、機構および使用目的を説明できる。
16	フェイスボウの取り扱いを説明できる。
17	咬合採得の手順を列挙できる。
18	咬合器の使用手順と調節方法を説明できる。
19	顎機能検査と口腔内装置を説明できる。

歯科理工学（講義）

担当教員： 片山遥 前崎宏典 他外来講師
学 年： 第1学年
単位区分： 必修
単 位 数： 5 (80)
開講時期： 前期
授業形態： 講義
テキスト： 歯科理工学教本・要点チェック問題集・歯科用語辞典・オリジナル資料
参考文献：
実務経験等： 歯科技工士として1991年より民間医院に勤務する講師等により、その豊富な知識・経験を活かし歯科医療に使用する材料・器械・器具の特徴と使用法の熟知への講義を行う。

【 授業の概要と目的 】

歯科理工学とは、歯科医療で使用される材料および器械、器具についての学問であり、歯学の基礎科目の一分野として位置づけられている。CAD/CAMシステムの進歩によるアナログからデジタルへの変換、併せて歯科材料の進歩・開発も顕著であり、技術や素材を理解することが重要である。歯科疾患の予防と治療には、様々な歯科材料や器械・器具が駆使されており、良質な歯科医療を提供するために、その特徴と使用法を熟知することを目的とする。

【 評価方法 】

年2回の定期試験により評価を行い、その平均による。
学則に基づき60点を合格基準とする。
授業回数2/3以上の出席をもって定期試験受験可とする。

【 履修上の注意事項 】

意味の分からない専門用語は歯科用語辞典を使用し意味を理解したうえで講義に臨むこと。

【 授業の展開計画と到達目標 】

科目	歯科理工学（講義）
1	材料の機械的特性と物理的性質を説明できる。
2	生体材料に要求される化学的・生物学的性質を説明できる。
3	歯科技工に必要な接着の原理と方法を説明できる。
4	印象材の種類と所要性質を説明できる。
5	印象材に必要な物理的・化学的性質を説明できる。
6	印象材と模型との関係を説明できる。
7	石膏の種類を列挙できる。
8	石膏の物理的性質を説明できる。
9	原型材料の種類と用途を説明できる。
10	ワックスの組成と性質を説明できる。
11	義歯床用レジンの種類、組成および性質を説明できる。
12	義歯床用レジンの重合法と重合反応を説明できる。
13	義歯床用レジンの成形法を説明できる。
14	レジン材料の用途を説明できる。
15	人工歯の種類と性質を説明できる。
16	義歯裏装材の種類と性質を説明できる。
17	歯冠用硬質レジンの組成と性質を説明できる。
18	歯冠用硬質レジンと金属との接着の原理・方法を説明できる。
19	歯科用陶材の種類と組成を列挙できる。
20	歯科用陶材の成形法を説明できる。
21	歯科用陶材の性質を説明できる。
22	金属焼付陶材における金属との結合を説明できる。
23	オールセラミッククラウン用陶材の種類と成形法を説明できる。
24	ジルコニアの種類と成形法を説明できる。
25	合金の所要性質を説明できる。
26	金合金の種類、組成、性質および用途を説明できる。
27	銀合金の種類、組成、性質および用途を説明できる。
28	コバルトクロム合金の種類、組成、性質および用途を説明できる。
29	チタンとチタン合金の種類、組成、性質および用途を説明できる。
30	鋳造収縮と補正を説明できる。

【 授業の展開計画と到達目標 】

科目	歯科理工学（講義）
31	埋没材の種類・性質、埋没操作および鑄型加熱を説明できる。
32	合金の融解と鑄込み方法を説明できる。
33	鑄造機の種類を列挙できる。
34	鑄造欠陥の種類、原因および対策を説明できる。
35	合金の接合方法を説明できる。
36	レーザー溶接の原理と使用方法を説明できる。
37	合金の加工法と熱処理を説明できる。
38	合着材・接着剤について説明できる。
39	成形修復材について説明できる。
40	インプラント材料について説明できる。
41	歯科材料接着処理について説明できる。
42	表面仕上げの意義と目的を説明できる。
43	切削・研削・研磨用材料と器械の取り扱い方を説明できる。
44	研磨の原理と方法を説明できる。
45	歯科用CAD/CAMシステムの構成と特徴を概説できる。
46	歯科技工物の素材の違いによる安定性について説明できる。

歯科理工学（実技）

担当教員： 金子裕子 川畑賢志朗
学 年： 第1学年
単位区分： 必修
単 位 数： 4 (128)
開講時期： 前期
授業形態： 実技
テキスト： 歯科理工学教本・オリジナル資料
参考文献： 歯科理工 実習と研究の基礎
実務経験等： 歯科技工士として勤務実績があり、長年の本校授業実績に基づく知識・経験等を有する本校専任教員2名により、歯科材料の種類、性質、取り扱い方等習得への講義を行う。

【 授業の概要と目的 】

歯科理工学は歯科材料の種類、性質、取り扱い方を学ぶ学問であり、理論と実習をリンクさせて学習する。各石膏の膨張量や硬化時間、条件の違いによる特性等について実験し、各石膏についての理解を深め、使用に合わせた石膏の選別ができるように学習する。鋳造については、埋没材の膨張量、条件の違いによる特性を実習・実験し、埋没材の「機械的性質」、「物理化学的性質」ならびに各材料成形に必要な機械器具を使用するための総括的知識をつけ、鋳造、ろう付けおよび研磨の実習を行う。ろう付けについては、自在ろう付けによるワイヤーのろう付けとクラウン型を使用した固定式（埋没式）ろう付けを行う。レジンについては重合と研磨を行い、レジンに対する理解を深める。

【 評価方法 】

各提出物により評価を行い、その平均による。
学則に基づき60点を合格基準とする。
授業回数2/3以上の出席をもって評価対象とする。

【 履修上の注意事項 】

作業がスムーズにできるように、実習に必要な技工用具の準備をしておくこと。

【 授業の展開計画と到達目標 】

科目	歯科理工学（実技）
1	石膏の硬化速度実験レポートの記入を行う。
2	石膏の膨張実験を行う。
3	W A X 試験体製作ができる。
4	埋没操作ができる。
5	リングライナー法が説明できる。
6	クラウン型試験体が製作できる。
7	MOD インレー型試験体が製作できる。
8	鋳造操作ができる。
9	鋳造体の研磨ができる。
10	埋没材の膨張実験を行う。
11	埋没材の膨張実験レポートの記入を行う。
12	レジン成形物の原型製作、埋没および重合操作ができる。
13	レジン成形物の割り出しと研磨ができる。
14	自在ろう付けができる。
15	埋没ろう付けができる。
16	ワイヤー屈曲ができる。

有床義歯技工学（講義）

担当教員： 前田明浩 高橋禎

学 年： 第1学年

単位区分： 必修

単 位 数： 3 (48)

開講時期： 前期

授業形態： 講義

テキスト： 有床義歯技工学教本・要点チェック問題集・歯科用語辞典・オリジナル資料

参考文献：

実務経験等： 1998年より民間医院勤務後開院し診療業務に従事する講師等により、その豊富な知識・経験等を活かし有床義歯技の知識習得への講義を行う。

【 授業の概要と目的 】

有床義歯技工学の目的は、欠損歯、周囲組織および患者個々に異なる顎運動を可及的に再現できる有床義歯を、作業用模型上で製作することである。製作された有床義歯は、患者の口腔内に装着されることによって、患者の咀嚼、嚥下、発音などの機能および審美性が回復され、失われた口腔の形態的・機能的回復によって患者の全身の健康が増進される。したがって、有床義歯技工学の意義は、欠損歯を有する患者の健康増進に間接的に寄与するものであり、これを学習する。

【 評価方法 】

年2回の定期試験により評価を行い、その平均による。

学則に基づき60点を合格基準とする。

授業回数2/3以上の出席をもって定期試験受験可とする。

【 履修上の注意事項 】

意味の分からない専門用語は歯科用語辞典を使用し意味を理解したうえで講義に臨むこと。

【 授業の展開計画と到達目標 】

科目	有床義歯技工学（講義）
1	有床義歯技工学の意義と目的を説明できる。
2	有床義歯の種類を列挙できる。
3	有床義歯の特徴と適応症を列挙できる。
4	全部床義歯の構成要素を説明できる。
5	全部床義歯を分類できる。
6	全部床義歯の維持、安定および支持について説明できる。
7	全部床義歯の製作順序を説明できる。
8	模型上の解剖学的ランドマークを列挙できる。
9	個人トレーの目的を述べることができる。
10	咬合採得の目的を述べることができる
11	咬合床の役割を述べることができる
12	咬合床製作に必要な作業用模型の処理を説明できる。
13	作業用模型の咬合器への装着方法を列挙できる。
14	ゴシックアーチ描記法の目的を述べる。
15	ゴシックアーチ描記装置の記録床への取り付け方法を説明できる。
16	人工歯排列に関わる機能的・審美的な基礎知識を説明できる。
17	人工歯の種類と特徴を説明できる。
18	人工歯の選択方法を説明できる。
19	有床義歯に付与する咬合様式を説明できる。
20	クリステンセン現象と調節彎曲を説明できる。
21	前歯部の人工歯排列方法を説明できる。
22	臼歯部の人工歯排列方法を説明できる。
23	歯肉形成の目的を述べることができる。
24	埋没の種類と方法を説明できる。
25	義歯床用レジンの重合法の種類と特徴を説明できる。
26	咬合器再装着の方法を説明できる。
27	人工歯の削合の目的と方法を説明できる。
28	研磨の目的と方法を説明できる。
29	部分床義歯の構成要素を列挙できる。
30	部分床義歯における維持、支持および把持を概説できる。

【 授業の展開計画と到達目標 】

科目	有床義歯技工学（講義）
31	部分床義歯を咬合圧の支持様式で分類できる。
32	部分床義歯を残存歯と欠損の分布状態で分類できる。
33	部分床義歯を使用目的で分類できる。
34	部分床義歯の製作順序を説明できる。
35	直接支台装置と間接支台装置を説明できる。
36	各種クラスプを分類できる。
37	環状型クラスプの種類と特徴を列挙できる。
38	バー型クラスプの種類と特徴を列挙できる。
39	アタッチメントの種類を列挙できる。
40	アタッチメントの構造を概説できる。
41	テレスコープ義歯の構造を概説できる。
42	テレスコープ義歯の特徴を列挙できる。
43	レストの種類と目的を説明できる。
44	補助支台装置の種類と目的を説明できる。
45	大連結子と小連結子の目的を説明できる。
46	大連結子の種類と特徴を説明できる。
47	隣接面板の目的を述べる。
48	模型上の解剖学的ランドマークを列挙できる。
49	咬合採得の目的を説明できる。
50	咬合床の役割を説明できる。
51	サベイヤーの使用目的と構造を説明できる。
52	クラスプの製作法を説明できる。
53	鋳造バーの製作法を説明できる。
54	人工歯の選択に関わる要素を説明できる。
55	前歯部の人工歯排列方法を説明できる。
56	臼歯部の人工歯排列方法を説明できる。
57	歯肉形成における残存歯との関係を説明できる。
58	部分床義歯の埋没の種類と方法を列挙できる。
59	破折と破損の原因を列挙できる。
60	修理方法を説明できる。

有床義歯技工学（実技）

担当教員： 金子裕子 川畑賢志朗

学 年： 第1学年

単位区分： 必修

単 位 数： 10 (320)

開講時期： 前期/後期

授業形態： 実技

テキスト： 有床義歯技工学教本・オリジナル資料

参考文献：

実務経験等： 歯科技工士として勤務実績があり、長年の本校授業実績に基づく知識・経験等を有する本校専任教員2名により、有床義歯の制作法習得への講義を行う。

【 授業の概要と目的 】

上下顎あるいは上顎・下顎どちらかすべての天然歯が欠損している無歯顎の患者に対して、失った天然歯とともに、失われた歯肉および歯槽骨を人工的に置き換える装置で、患者自身で着脱可能な補綴装置を全部床義歯という。

また、無歯顎に対応する全部床義歯に対し、残存歯を有する場合の可撤性補綴装置を部分床義歯という。基本的な構造は、主に天然歯に代わる人工歯、顎堤や口蓋などの粘膜に接する義歯床、義歯を定位置に維持させる支台装置および2つ以上の床や支台装置をつなぐ連結子からなる。

これら二つの製作方法を習得する。

【 評価方法 】

各提出物により評価を行い、その平均による。

学則に基づき60点を合格基準とする。

授業回数2/3以上の出席をもって評価対象とする。

【 履修上の注意事項 】

作業がスムーズにできるように、実習に必要な技工用具の準備をしておくこと。

【 授業の展開計画と到達目標 】

科目	有床義歯技工学（実技）
1	研究用模型を製作できる。
2	個人トレーを製作できる。
3	作業用模型を製作できる。
4	咬合床を製作できる。
5	作業用模型を咬合器に装着できる。
6	サベイヤーを使用できる。
7	クラスプを製作できる。
8	鑄造バーを製作できる。
9	屈曲バーを製作できる。
10	人工歯排列ができる。
11	歯肉形成ができる。
12	全部床義歯の埋没、流ろうおよび重合ができる。
13	部分床義歯の埋没、流ろうおよび重合ができる。
14	咬合器に模型を再装着できる。
15	選択削合、自動削合および人工歯咬合面の形態修正ができる。
16	全部床義歯を研磨できる。
17	部分床義歯を研磨できる

歯冠修復技工学（講義）

担当教員： 三村 彰吾 他外来講師

学 年： 第1学年

単位区分： 必修

単 位 数： 3 (48)

開講時期： 前期

授業形態： 講義

テキスト： 歯冠修復技工学教本・歯科用語辞典

参考文献：

実務経験等： 歯科医師として1990年より大学病院、民間医院に勤務後開院し診療業務に従事する講師等により、その豊富な知識・経験等を活かし歯冠修復のための理論・技術習得への講義を行う。

【 授業の概要と目的 】

歯冠修復物は、口腔内で直接製作することが困難である場合に、口腔内から採得、記録された印象、咬合、色調などをもとに、適切な形態、機能、外観を持つ修復物と装置を模型上で製作し、顎口腔系の健康の回復、保持、増進を目的として患者に対して提供する。そのためには生物学的、構造力学的、化学的そして審美的要件を満たさなければならない。

その歯冠修復物、冠（クラウン）、架橋義歯（ブリッジ、固定性補綴装置）などの製作に関する知識と技術について学習する。

【 評価方法 】

年2回の定期試験により評価を行い、その平均による。

学則に基づき60点を合格基準とする。

授業回数2/3以上の出席をもって定期試験受験可とする。

【 履修上の注意事項 】

意味の分からない専門用語は歯科用語辞典を使用し意味を理解したうえで講義に臨むこと。

【 授業の展開計画と到達目標 】

科目	歯冠修復技工学（講義）
1	歯冠修復技工学の意義と目的を説明できる。
2	クラウンの意義、特徴および用途を説明できる。
3	部分被覆冠の種類と特徴を列挙できる。
4	全部被覆冠の種類と特徴を列挙できる。
5	ブリッジの特徴を列挙できる。
6	ブリッジの構成要素を説明できる。
7	ブリッジの種類を説明できる。
8	生物学的要件を説明できる。
9	構造学的要件を説明できる。
10	化学的要件を説明できる。
11	審美的要件を説明できる。
12	クラウン・ブリッジの製作順序を説明できる。
13	印象材の種類と特徴を列挙できる。
14	印象方法を説明できる。
15	研究用模型の使用目的を述べる。
16	印象用トレーの種類と目的を説明できる。
17	印象用トレーの製作法を説明できる。
18	支台築造の意義と目的を説明できる。
19	支台築造の種類と使用材料を列挙できる。
20	支台築造の製作法を説明できる。
21	プロビジョナルレストレーションの意義と目的を説明できる。
22	プロビジョナルレストレーションの種類と使用材料を列挙できる。
23	プロビジョナルレストレーションの製作法を説明できる。
24	シェードマッチングの要件と方法を列挙できる。
25	作業用模型の意義と目的を説明できる。
26	作業用模型の構成と要件を列挙できる。
27	作業用模型の種類を列挙できる。
28	作業用模型の製作法を説明できる。
29	歯型の辺縁形態を説明できる。
30	ワックスアップパターン形成の種類と方法を説明できる。

授業の展開計画

科目	歯冠修復技工学（講義）
31	研磨の意義と目的を説明できる。
32	研磨法を説明できる。
33	前装部の形態と接着法を説明できる。
34	陶材の築盛法を説明できる。
35	コンデンスの意義を述べる。
36	陶材の焼成を説明できる。
37	陶材焼付金属冠の製作法を説明できる。
38	ポンティックの要件と構造を列挙できる。
39	ポンティックの種類と形態を説明できる。
40	ポンティックの適応部位を説明できる。
41	連結法の種類、適応および用途を説明できる。
42	インプラントの目的を述べる。
43	インプラントの種類を列挙できる。
44	インプラントの上部構造体の製作法を概説できる。
45	CAD/CAMシステムの構成を説明できる。
46	CAD/CAMシステムでの製作法を説明できる。
47	CAD/CAMシステムの利点と欠点について説明できる。
48	CAD/CAMシステムで使用されている材料について説明できる。

歯冠修復技工学（実技）

担当教員： 佐藤剛 芹川小鈴
学 年： 第1学年
単位区分： 必修
単 位 数： 10 (320)
開講時期： 前期/後期
授業形態： 実技
テキスト： 歯冠修復技工学教本・オリジナル資料
参考文献：
実務経験等： 歯科技工士として勤務実績があり、長年の本校授業実績に基づく知識・経験等を有する本校専任教員2名により、歯冠修復物の製作法習得への講義を行う。

【 授業の概要と目的 】

部分被覆冠は、歯冠の部分的な疾病に対して、疾病部分を含む周辺部位を修復する目的に応じた形態に形成した窩洞に、メタル、レジン、陶材などで製作するものである。鋳造や切削加工などで製作されるメタルインレーだが、鋳造による製作方法を習得する。

全部被覆冠は、歯冠形態を回復する最も基本的な修復物であり、金属のみによって歯冠形態を回復する方法が全部金属冠である。その製作方法を習得する。

ブリッジは、少数歯欠損が生じた場合において、隣接する歯に支台装置、欠損部にはポンティックを製作し連結したものである。ワンピースキャスト法による臼歯部全部金属の製作方法を習得する。

その他、メタルコア、プロビジョナルレストレーション、前歯部ブリッジ等についても製作方法を習得する。

【 評価方法 】

各提出物により評価を行い、その平均による。

学則に基づき60点を合格基準とする。

授業回数2/3以上の出席をもって評価対象とする。

【 履修上の注意事項 】

作業がスムーズにできるように、実習に必要な技工用具の準備をしておくこと。

小児歯科技工学（講義）

担当教員： 原田 華

学 年： 第2学年

単位区分： 必修

単 位 数： 1 (16)

開講時期： 前期

授業形態： 講義

テキスト： 小児歯科技工学教本・要点チェック問題集・歯科用語辞典

参考文献：

実務経験等： 歯科医師として2002年より大学病院、民間医院にて診療業務に従事する講師により、その豊富な知識・経験等を活かし小児対象の歯科技工の知識習得への講義を行う。

【 授業の概要と目的 】

小児歯科とは、一生のうちで最も変化に富んだ時期である小児期を対象として歯科的処置を行うものである。小児歯科は補綴や保存のように処置法によって分けられず、発達途上にある歯列、顎顔面の正常な発育を阻害する因子を予防あるいは早期に発見し、治療、管理を施し、健全な永久歯列を導くことを目的としている。特に混合歯列期などでは、その後の歯の萌出をも考慮して歯科技工物の設計、製作を行う必要がある。以上のような小児の特徴を理解し、歯科技工を行うに際して必要とされるさまざまな知識を学び、技術を修得するための学問が小児歯科技工学である。

【 評価方法 】

年2回の定期試験により評価を行い、その平均による。

学則に基づき60点を合格基準とする。

授業回数2/3以上の出席をもって定期試験受験可とする。

【 履修上の注意事項 】

意味の分からない専門用語は歯科用語辞典を使用し意味を理解したうえで講義に臨むこと。

【 授業の展開計画と到達目標 】

科目	小児歯科技工学（講義）
1	小児歯科治療の特色や小児歯科技工の目的を説明できる。
2	顎顔面の成長発育を説明できる。
3	乳歯と永久歯の萌出時期と萌出順序を説明できる。
4	ヘルマン（Hellman）の歯齢を説明できる。
5	乳歯の形態的特徴を説明できる。
6	無歯期における顎の上下対向関係を説明できる。
7	顎間空隙を説明できる。
8	乳歯列の形態を説明できる。
9	生理的歯間空隙を説明できる。
10	乳歯列期における有隙歯列弓と閉鎖型歯列弓を説明できる。
11	乳歯列における被蓋関係を説明できる。
12	ターミナルプレーンの定義と意義を説明できる。
13	第一大臼歯の萌出時期と萌出方向を説明できる。
14	ターミナルプレーンと第一大臼歯との関係を説明できる。
15	切歯の交換様式を説明できる。
16	リーウェイスペースの定義と重要性を説明できる。
17	小児の歯冠修復の種類と特徴を説明できる。
18	保隙装置の種類を分類できる。
19	各種保隙装置の目的、構成および製作法を説明できる。
20	スペースリゲーターの目的、構成、および製作法を説明できる。
21	口腔習癖の種類と口腔への影響を列挙できる。
22	口腔習癖除去装置の目的と種類を説明できる。
23	舌癖除去装置の構成を列挙できる。
24	咬合誘導装置に用いる維持装置の種類、特徴、および製作法を説明できる。

小児歯科技工学（実技）

担当教員： 松岡紗規子

学 年： 第2学年

単位区分： 必修

単 位 数： 1 (32)

開講時期： 前期

授業形態： 実技

テキスト： 小児歯科技工学教本・オリジナル資料

参考文献：

実務経験等： 歯科技工士として2011年より民間医院に勤務し、2025年に歯科技工所を開業した講師により、その豊富な知識・経験等を活かし小児対象の歯科技工の技術習得への講義を行う。

【 授業の概要と目的 】

小児歯科技工は、技工操作においても、小児の特徴を十分把握していなくてはならない。顎顔面の成長発育、歯の形態、咬合形態、機能など多くの点でその年齢それぞれに特徴を持っているので、その年齢にあった対応をしなければならない。その意味から、成人の補綴装置とは様々な点で特徴的な違いがあり、小児に用いる装置が独特であるのも当然である。特に混合歯列期などでは、歯科技工物の設計、製作に際して、その後の歯の萌出をも考慮しなければならないなど、永久歯列の場合と異なることが少なくない。以上のような小児の特徴を理解し、歯科技工を行うに際して必要とされるさまざまな知識を学び、技術を習得することを目標とする。

【 評価方法 】

各提出物により評価を行い、その平均による。
学則に基づき60点を合格基準とする。
授業回数2/3以上の出席をもって評価対象とする。

【 履修上の注意事項 】

作業がスムーズにできるように、実習に必要な技工用具の準備をしておくこと。

矯正歯科技工学（講義）

担当教員： 京極 和彦

学 年： 第2学年

単位区分： 必修

単 位 数： 1 (16)

開講時期： 前期

授業形態： 講義

テキスト： 矯正歯科技工学教本・要点チェック問題集・歯科用語辞典

参考文献：

実務経験等： 2000年より歯科医院を開院し診療業務に従事する講師により、その豊富な知識・経験等を活かし矯正歯科に関する知識習得への講義を行う。

【 授業の概要と目的 】

矯正治療は、不正咬合（咬合異常、歯並びの異常）をその形態や機能について改善するための治療や予防および育成を行うことである。不正咬合は、歯だけではなく、それを支持する歯槽骨や顎骨を含む口腔顎顔面領域に、何らかの原因があるために発生することが多い。矯正歯科治療では、歯の移動だけではなく、顎骨や口腔周囲筋などに対する様々な対処や治療が必要とされ、これに伴い、多種多様な治療のための装置が考案されている。歯科治療の流れと、歯科技工の関わりについて理解し、これらの治療のための矯正装置についての知識を持ち、適切な矯正装置を製作できるよう学習する。

【 評価方法 】

年2回の定期試験により評価を行い、その平均による。

学則に基づき60点を合格基準とする。

授業回数2/3以上の出席をもって定期試験受験可とする。

【 履修上の注意事項 】

意味の分からない専門用語は歯科用語辞典を使用し意味を理解したうえで講義に臨むこと。

【 授業の展開計画と到達目標 】

科目	矯正歯科技工学（講義）
1	矯正歯科治療の意義と目的を説明できる。
2	矯正歯科治療における矯正歯科技工の目的を説明できる。
3	正常咬合の条件と種類を列挙できる。
4	不正咬合について説明できる。
5	矯正歯科治療における症例分析法を説明できる。
6	機械・器具名と材料の種類を列挙できる。
7	機械・器具名と材料の用途を説明できる。
8	矯正歯科技工の手技を説明できる。
9	矯正用口腔模型の種類と特徴を列挙できる。
10	平行模型の製作法を説明できる。
11	セットアップモデルの用途と製作法を説明できる。
12	矯正装置の必要条件を説明できる。
13	矯正装置の分類を列挙できる。
14	各種動的矯正装置の目的と構成を説明できる。
15	各種動的矯正装置の製作法を説明できる。
16	ダイレクトボンディング法・インダイレクトボンディング法を説明できる。
17	各種静的矯正装置の目的と構成を説明できる。
18	各種静的矯正装置の製作法を説明できる。

矯正歯科技工学（実技）

担当教員： 松岡紗規子

学 年： 第2学年

単位区分： 必修

単 位 数： 1 (32)

開講時期： 前期

授業形態： 実技

テキスト： 矯正歯科技工学教本・オリジナル資料

参考文献：

実務経験等： 歯科技工士として2011年より民間医院に勤務し、2025年に歯科技工所を開業した講師により、その豊富な知識・経験等を活かし矯正装置の製作技術習得への講義を行う。

【 授業の概要と目的 】

一般に歯科技工の主流は義歯、金属冠、充填物などの製作であるが矯正歯科技工というものはいささかそれらと異なった性格をもつ。

義歯や金属冠等の各種補綴物は製作を終えて口腔内に装着されると、その時点で治療の終末であるのに対し、矯正装置は装着した時点が治療開始であり、製作技術の良否がそれらの治療の成否を左右するものである。不正咬合そのものに対する理解を深めるとともに、矯正治療全体の流れや考え方および矯正装置の役割を十分に理解して製作し、各種装置とその装置の働きについて学習する。

【 評価方法 】

各提出物により評価を行い、その平均による。

学則に基づき60点を合格基準とする。

授業回数2/3以上の出席をもって評価対象とする。

【 履修上の注意事項 】

作業がスムーズにできるように、実習に必要な技工用具の準備をしておくこと。

歯科技工実習（実技）

担当教員： 金子裕子 佐藤剛 川畑賢志朗 芹川小鈴

学 年： 第2学年

単位区分： 必修

単位数： 11 (352)

開講時期： 前期/後期

授業形態： 実技

テキスト： 各教科教本・実習物によってオリジナル資料

参考文献：

実務経験等： 歯科技工士として勤務実績があり、長年の本校授業実績に基づく知識・経験等を有する本校専任教員4名により、より臨床に対応できるよう基礎実習での知識技能の習熟度を高める講義を行う。

【 授業の概要と目的 】

臨床的な模型を使用し、臨床に即した手法を用いて、より臨床に対応できるように行う実習である。基礎実習で学んだ知識技能を基礎として習熟度を高めて、時間短縮を求め完成度の高い補綴物を目指して行う。

【 評価方法 】

各提出物により評価を行い、その平均による。

学則に基づき60点を合格基準とする。

授業回数2/3以上の出席をもって評価対象とする。

【 履修上の注意事項 】

作業がスムーズにできるように、実習に必要な技工用具の準備をしておくこと。

選択必修分野

総合歯科学（講義）

担当教員：	金子裕子	佐藤剛	川畑賢志朗	芹川小鈴
学 年：	第2学年			
単位区分：	必修			
単 位 数：	4	(64)		
開講時期：	前期/後期			
授業形態：	講義			
テキスト：	各教科教本・各種問題集・歯科用語辞典・オリジナル資料			
参考文献：				
実務経験等	歯科技工士として勤務実績があり、長年の本校授業実績に基づく知識・経験等を有する本校専任教員4名により、専門基礎科目及び専門科目での学習を的確に行うため、各教科の知識をより深く広め総合的に理解する力の習得への講義を行う。			

【 授業の概要と目的 】

医療分野における歯科医療の重要性、歯科医療における歯科技工の役割を理解し専門基礎科目と専門科目における学習を的確に行うために、各教科をさらに深く知識を広め総合的に理解する。

【 評価方法 】

年2回の定期試験により評価を行い、その平均による。

※学則に基づき60点を合格基準とする。

授業回数2/3以上の出席をもって定期試験受験可とする。

【 履修上の注意事項 】

意味の分からない専門用語は歯科用語辞典を使用し意味を理解したうえで講義に臨むこと。

【 授業の展開計画と到達目標 】

科目	総合歯科学（講義）
	：歯科技工と歯科医療
1	歯科技工概論について説明できる。
2	歯科技工士と法律について説明できる。
	：歯・口腔の構造と機能
3	歯・歯周組織の構造と機能について説明できる。
4	顎口腔系の基本的構造と機能について説明できる。
5	下顎運動と上下歯列の位置関係について説明できる。
	：歯科材料・歯科技工機器の特徴と加工技術
6	歯科材料の性質について説明できる。
7	模型の製作について説明できる。
8	原型の製作について説明できる。
9	レジン成形について説明できる。
10	セラミック成形について説明できる。
11	金属成形について説明できる。
12	補綴装置の仕上げについて説明できる。
13	加工技術について説明できる。
	：有床義歯補綴治療における歯科技工（有床義歯技工学）
14	有床義歯技工学の意義と目的について説明できる。
15	全部床義歯の特性について説明できる。
16	全部床義歯の製作手順について説明できる。
17	全部床義歯の印象採得に伴う技工作業について説明できる。
18	全部床義歯の咬合採得に伴う技工操作について説明できる。
19	全部床義歯の人工歯排列と歯肉形成について説明できる。
20	全部床義歯の埋没と重合について説明できる。
21	全部床義歯の咬合器再装着、削合および研磨について説明できる。
22	部分床義歯の特性について説明できる。
23	部分床義歯の製作順序について説明できる。
24	部分床義歯の構成要素について説明できる。
25	部分床義歯の印象採得に伴う技工操作について説明できる。
26	部分床義歯の咬合採得に伴う技工操作について説明できる。

【 授業の展開計画と到達目標 】

科目	総合歯科学（講義）
27	部分床義歯の人工歯排列と歯肉形成について説明できる。
28	部分床義歯の埋没、重合および研磨について説明できる。
29	部分床義歯の修理について説明できる。
30	リベースとリラインについて説明できる。
31	オーバーデンチャーについて説明できる。
32	金属床義歯について説明できる。
	：歯冠修復治療における歯科技工（歯冠修復技工学）
33	歯冠修復技工学の意義と目的について説明できる。
34	クラウンの概要と種類を説明できる。
35	ブリッジの概要と種類を説明できる。
36	クラウン・ブリッジの具備条件について説明できる。
37	クラウン・ブリッジの製作順序について説明できる。
38	クラウン・ブリッジの技工操作について説明できる。
39	インプラント（人工歯根）の概要について説明できる。
	：小児歯科治療における歯科技工（小児歯科技工）
40	小児歯科治療における小児歯科技工の意義と目的について説明できる。
47	歯・顎・顔面の成長発育について説明できる。
41	小児の歯冠修復について説明できる。
42	咬合誘導装置について説明できる。
	：不正咬合と矯正装置（矯正歯科技工学）
43	矯正歯科治療における矯正歯科技工の意義と目的について説明できる。
44	正常咬合と不正咬合について説明できる。
45	矯正歯科技工用具と機器について説明できる。
46	矯正歯科技工の手法について説明できる。
47	矯正用口腔模型について説明できる。
48	矯正装置の必要条件と分類について説明できる。
49	動的矯正装置について説明できる。
50	保定装置について説明できる。

選択必修分野

総合歯科学（実技）

担当教員： 金子裕子 佐藤剛 川畑賢志朗 芹川小鈴

学 年： 第2学年

単位区分： 必修

単 位 数： 6 (192)

開講時期： 前期/後期

授業形態： 実技

テキスト： 各教科教本・オリジナル資料

参考文献：

実務経験等： 歯科技工士として勤務実績があり、長年の本校授業実績に基づく知識・経験等を有する本校専任教員4名により、反復練習によって各教科の知識・習熟度を高め時間短縮とともに完成度の高い作品制作の技術習得への講義を行う。

【 授業の概要と目的 】

歯科医療における歯科医療の重要性、歯科医療における歯科技工の役割を理解し、専門科目における学習を的確に行うために、反復練習によって各教科をさらに深く知識を広め、習熟度を深め、時間短縮を求め完成度の高い補綴物を目指して行う。

【 評価方法 】

年に2回行う定期試験と実習課題の総合評価とする。

学則に基づき60点を合格基準とする。

授業回数2/3以上の出席をもって定期試験受験可とする。

【 履修上の注意事項 】

作業がスムーズにできるように、実習に必要な技工用具の準備をしておくこと。

